

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年8月28日

【評価実施概要】

事業所番号	4572000612		
法人名	有限会社寿幸苑		
事業所名	グループホーム寿幸苑		
所在地	宮崎県児湯郡新富町大字新田1680-1 (電話) 0983-33-2867		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成21年7月23日	評価確定日	平成21年8月28日

【情報提供票より】 (平成21年6月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成15年9月12日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤8人, 非常勤3人, 常勤換算3.6人	

(2) 建物概要

建物構造	木造一部鉄骨 造り
	1階建ての 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,500 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

(4) 利用者の概要(平成21年6月25日現在)

利用者人数	8名	男性 4名	女性 4名
要介護1	1	要介護2	3
要介護3	2	要介護4	0
要介護5	2	要支援2	0
年齢	平均 84.7歳	最低 72.6歳	最高 99.8歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小松医院、いちき歯科
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

町の中心地より西部方向のやや郊外で、田園風景に囲まれた静かな恵まれた環境の中にホームは立地している。地域住民の一員として自治会に加入し、祭りへの参加や文化祭に利用者の作品の出品、ボランティアの受け入れ等、地元の人々との交流を積極的に行っている。また、重度化した場合の対応についても利用開始時に看取りに関する方針を説明し、関係者全員が共有しており利用者も家族も安心して生活している。なお、訪問看護ステーションとも連携している。利用者の高齢化が進み車いすの利用者が多くなっているが、職員の心のこもった温かいケアに支えられ、利用者の表情は明るく全員元気に暮らしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	改善課題である家族への報告は、家族の来訪時に利用者の暮らしぶり等を詳しく報告している。また、入浴は週3回を原則としているが、希望に応じて清拭、部分浴等改善している。その他、外出支援や鍵をかけるケアについても引続き取り組んでいるが、まだ改善に至っていない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員が各々に自己評価を作成することで、評価の意義や目的を理解し、自らのケアの反省の機会にしており、自己評価がサービスの質の向上に生かされている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、地域の代表をはじめメンバーに隣家の住民も加わり、活発な意見交換が行われている。会議では隣家と接する溝の清掃の問題が議題となり、円満に解決された事例がある。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会を設け、家族同士の話し合いの中から、意見や不満を表せる機会作りに取り組んでいる。苦情相談については、重要事項説明書に記載されているが明確ではない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入しており、地域の祭りへの参加や町主催の文化祭に利用者の作品の出品、月2回のボランティアの受け入れ等、地域の行事に積極的に参加して地元の人々との交流に努めている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「やさしさと笑顔いっぱい、地域で暮らす寿幸苑」という地域との関係性を重視した理念を職員全員で話し合い作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職場会議やミーティング等で理念について話し合い、職員全員が理念を共有している。また、理念に沿った心のこもったケアが実践されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、地域の祭りへの参加や町主催の文化祭に利用者の作品の出品、月2回のボランティアの受け入れ等、地域の行事に積極的に参加し地元の人々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が各々に自己評価を作成することで、評価の意義や目的を理解し、自らのケアの反省の機会にしている。また、外部評価は運営推進会議で報告するとともに、結果を踏まえて改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、地域の代表をはじめメンバーに隣家の住人も加わり、活発な意見交換や話し合いをし、そこでの意見をサービスの向上に生かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当者には、運営の報告や課題等について報告や相談をしている。また、町が主催する行事や会合には、積極的に参加するなど交流に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の来訪時に利用者の暮らしぶりや健康状態を詳しく報告している。また、金銭管理は、出納簿の作成、家族への定期的な報告により承認を得ている。寿幸苑だよりも年3回～4回発行している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を設け、家族同士の話し合いの中から意見や不満を表せる機会づくりに取り組んでいる。	○	重要事項説明書に苦情・相談受付担当者名と電話番号、町の担当窓口、国民健康保険団体連合会等の記載がないので追加記載をするとともに、事業所以外の外部の人に、意見や苦情を表せる場があることを繰り返し説明してほしい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、職員の離職を最小限に抑えるために内部体制を整備し、働きやすい環境づくりに努めているが、離職者が多い状況が続いている。	○	利用者が安心して生き生きと毎日を過ごすためには、利用者と職員がなじみの関係を保つことが重要であり、離職の多い原因について検討し、離職を最小限に抑える努力をしてほしい。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内・外の研修には、職員の要望やレベルに合わせ、計画的に参加している。また、研修の結果は復命書や会議で報告し、全員で共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム相互の見学やグループホーム連絡協議会の研修会に参加して、勉強会や情報交換を行い交流を深めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に、職員が自宅や病院を訪問し顔なじみの関係を作ったり、ホームを見学してもらう等、徐々になじめるよう家族と相談しながら対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、毎日の生活の中で利用者の喜びや不安などを知ることに努め、相互に分かち合い信頼関係を築いている。また、利用者からは、料理や礼儀作法等多くのことを学び支えあう関係ができている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や関係者から、これまでの生活習慣や思い等の情報を収集するとともに、利用者の日々の行動や表情、会話の中から希望や意向を把握できるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意向や希望を取り入れ、職員間で十分検討し、気づきやアイデアを反映した利用者本位の介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回モニタリングを行い利用者の状況や意向を確認しているが、介護計画の見直しは6か月に1回のみ行っている。	○	毎月モニタリングを実施しているが、それを基礎とした介護計画の見直しが行われていない。介護計画は、3か月に1回の見直しと状況に応じた随時の見直しを期待したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者と家族の状況や希望に応じて、通院や外泊、外出等柔軟に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの掛かり医を基本としているが、協力医院でいつでも受診や気軽に相談ができる体制ができている。また、訪問看護ステーションと連携し支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応については、利用開始時に看取りに関する方針を家族に説明し承諾を得ている。また、関係者全員が方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけが丁寧で、利用者のプライバシーに配慮したケアができている。また、個人情報の管理も適切に行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての基本的な流れはあるが、利用者の意向やその日の体調に合わせ、自由に自分のペースで暮らせるよう柔軟に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は同じテーブルを囲んで楽しく食事をしている。また、利用者の力量に応じて、職員と一緒に準備や後片づけをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回としているが、希望があればいつでも入浴できるよう支援している。また、状況に応じて清拭、部分浴、シャワー浴等も行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの有する力の範囲で、塗り絵、カラオケ、体操、洗濯物たたみ等、毎日楽しく過ごせるよう支援している。また、少数ではあるが、隣接する畑で季節の野菜の収穫に精を出す利用者もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の高齢化が進み、車いす利用者が多くなり、日常的な外出はかなり厳しい状況になっている。苑内の庭の散歩は時々している。	○	重度の利用者も戸外で気持ちよく過ごせることを望んでおり、家族やボランティアの協力を得て、短時間でも散歩や外出ができないか検討してほしい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害は理解しているが、ホームの前に川があり、事故防止の立場から玄関が常時施錠された状態となっている。家族の了解も得ている。	○	徘徊する利用者がいて事故防止の観点からかなり厳しい面もあるが、さりげない声かけや見守りの時間を少しずつ増やす等、何とか鍵をかけないケアができないか検討してほしい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回の避難訓練は実施しているが、消防署の協力を得た防災訓練は行われていない。職員の緊急連絡網による召集訓練は行っている。	○	消防署の協力を得た防災訓練とホーム独自の定期的な避難訓練を実施してほしい。また、近隣住民の協力が得られるよう、日ごろから働きかけをしてほしい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事や水分摂取量は、毎日チェックし職員間で共有している。また、利用者の好みや希望を取り入れたバランスの良い食事の内容となっている。管理栄養士の指導も受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の生活空間は、テーブルやソファが置かれ、座敷もあり、家庭的な雰囲気やゆったりとくつろげるように工夫している。壁には四季折々のほり絵や利用者の作品等が飾られ、居心地良く暮らせるよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはタンスやソファ、ラジオ、家族との思い出の写真、使い慣れた日用品等が持ち込まれ、利用者が安心して居心地よく生活できるよう工夫をしている。		

※  は、重点項目。